

九州・山口県の火山活動 (令和8年8月1日～9月18日)

令和8年9月18日
福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

今回のポイント

- ・桜島で噴火活動が継続
- ・阿蘇山で噴火警戒レベルを3から2に引き下げ

桜島

噴火警戒レベル3（入山規制）

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 kmの範囲で警戒（大きな噴石、火砕流）

阿蘇山

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

中岳第一火口から概ね1 kmの範囲で警戒（大きな噴石、火砕流）

- ・（お知らせ）2026火山砂防フォーラムin鹿児島について

噴火警報及び噴火予報の発表状況 (令和8年9月18日現在)

火山名 は噴火警戒レベル運用火山

▲ 噴火警報発表中の火山

▲ 噴火予報発表中の火山 (レベル運用火山)

△ 噴火予報発表中の火山 (レベル対象外火山)

鶴見岳・伽藍岳

8/9 : 解説情報発表
8/12 : 解説情報発表

九重山

阿蘇山

噴火警戒レベル 2 → 3 → 2

8/13 : 解説情報発表
8/14 : 解説情報 (臨時) 発表
8/14 : 噴火警報 (レベル3) 発表
9/1 : 噴火警報 (レベル2) 発表

雲仙岳

薩摩硫黄島

噴火警戒レベル 2

口永良部島

噴火警戒レベル 2

霧島山 (えびの高原 (硫黄山) 周辺)

霧島山 (大幡池)

霧島山 (新燃岳)

噴火警戒レベル 2

霧島山 (御鉢)

桜島

噴火警戒レベル 3

8/24 : 解説情報発表

諏訪之瀬島

噴火警戒レベル 2

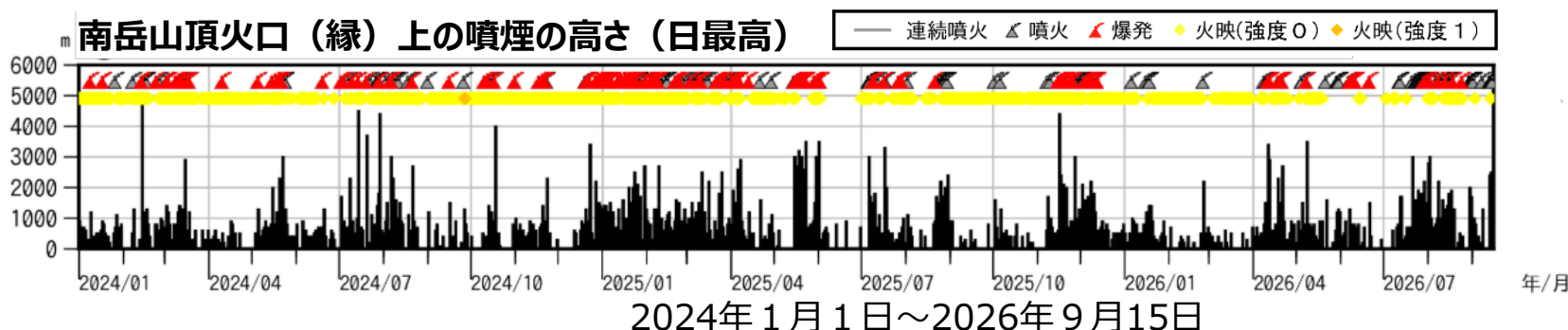
0 10 50 100 km

桜島

噴火警戒レベル3（入山規制）

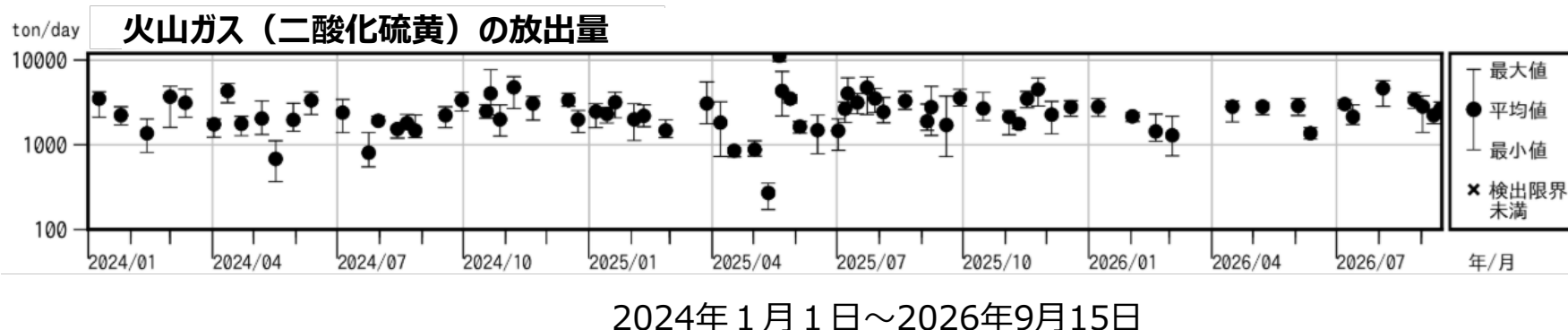
■ 噴火活動

南岳山頂火口では、8月は噴火が61回（うち爆発は7回）、9月（16日まで）は噴火が21回（爆発なし）発生。



■ 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量

8月以降は1日あたり2,200～4,600トンと引き続き概ね多い状態。

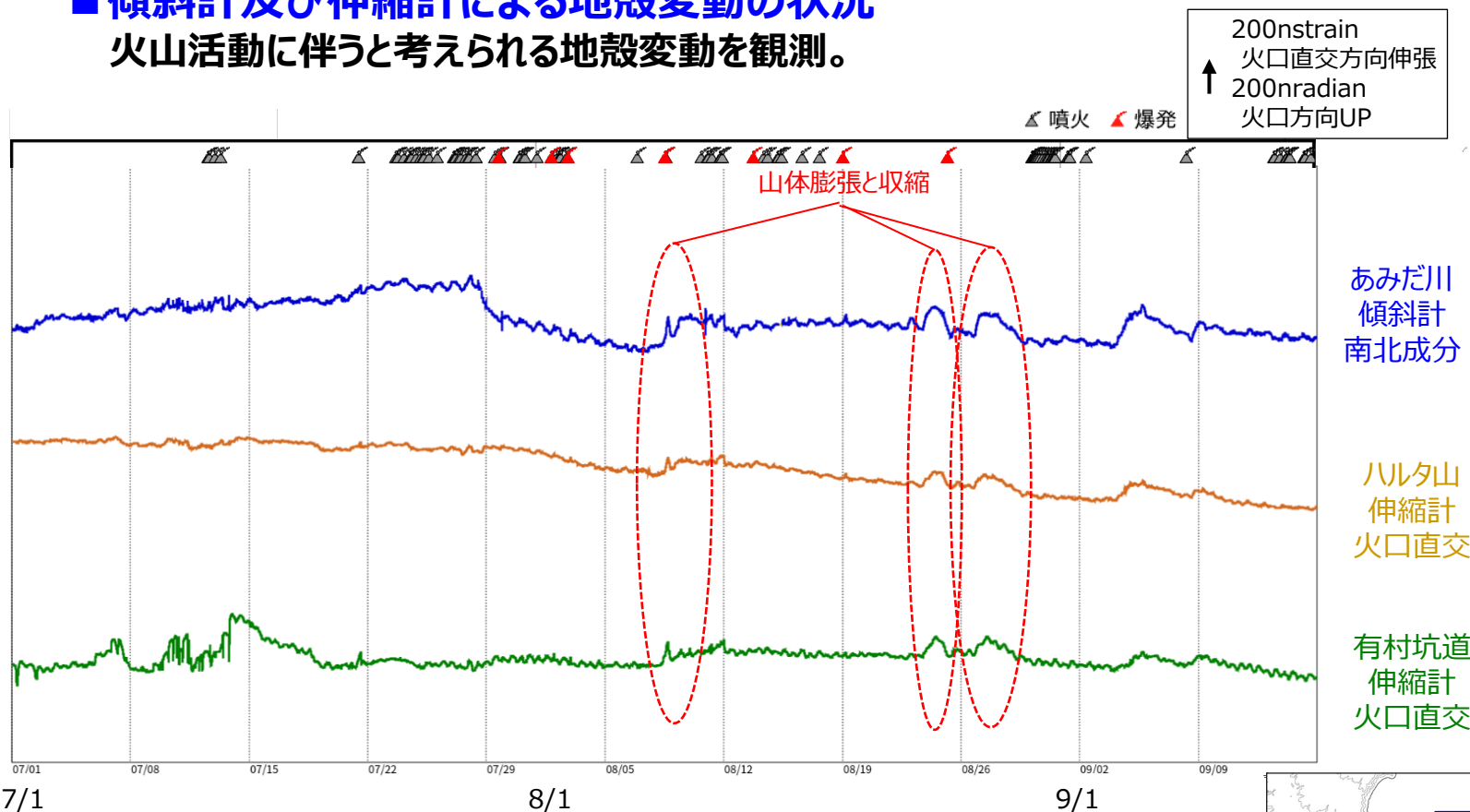


桜島

噴火警戒レベル3 (入山規制)

■傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況

火山活動に伴うと考えられる地殻変動を観測。



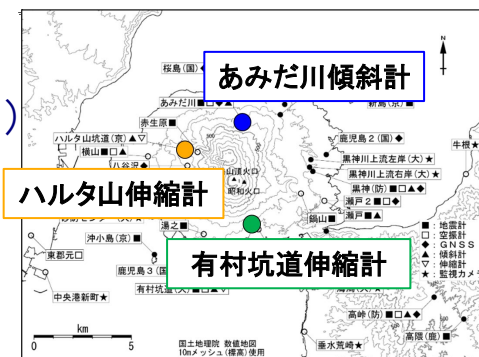
桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況(2026年7月1日～9月15日)

※あみだ川観測点は山頂火口域のほぼ北に位置していることから、傾斜計南北成分の南側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示。

※各観測点のデータには、潮汐補正を行っている。

※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用。

※9月初旬の変動は降水の影響によるものである可能性がある。



桜島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒事項

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する**大きな噴石**及び**火砕流**に警戒してください。



南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 km

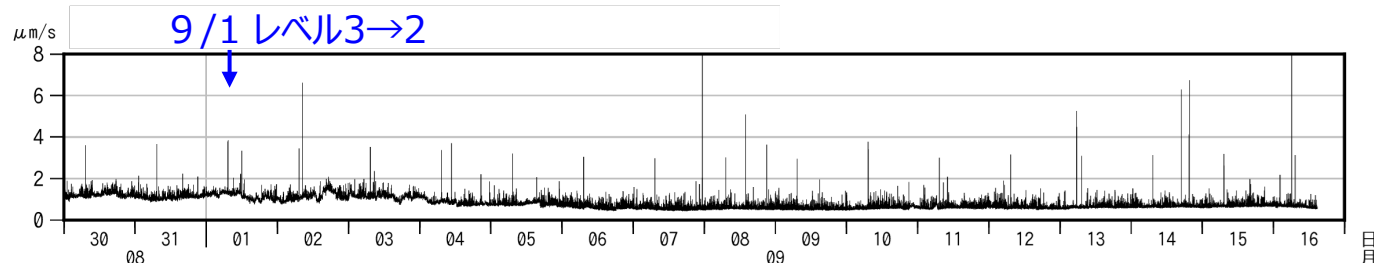
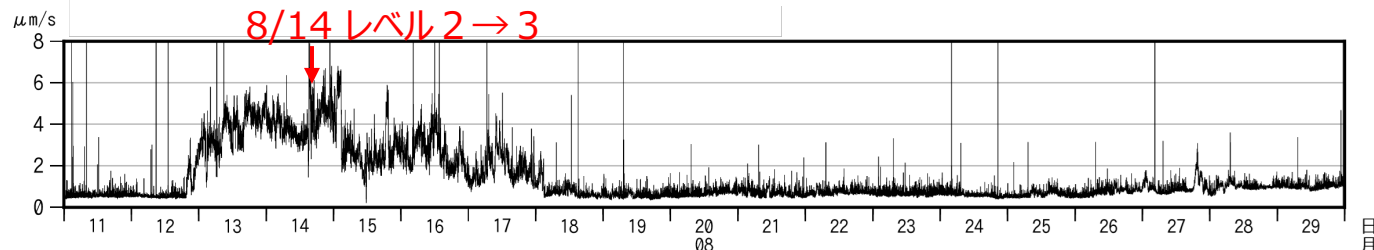
- ・風下側では**火山灰**だけでなく**小さな噴石**が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- ・爆発に伴う大きな**空振**によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
- ・降灰状況により、降雨時に**土石流**が発生する可能性があるので留意してください。

阿蘇山

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

■ 9月1日 噴火警戒レベルを3から2に引き下げ

火山性微動の1分間平均振幅（中岳西山腹：南北成分）

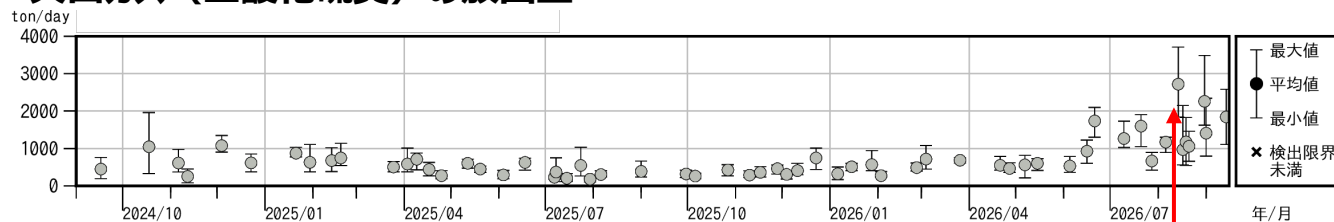


2026年8月11日～2026年9月16日



火山性微動の振幅は8月12日頃から増大したが、18日頃からは低下

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量



2024年9月1日～2026年9月15日

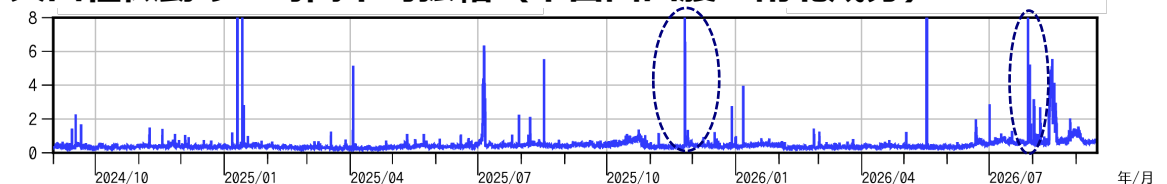
火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、8月14日に1日あたり2,700トンとそれ以前と比べて急増したが、それ以降は急激な増加傾向は見られない

阿蘇山

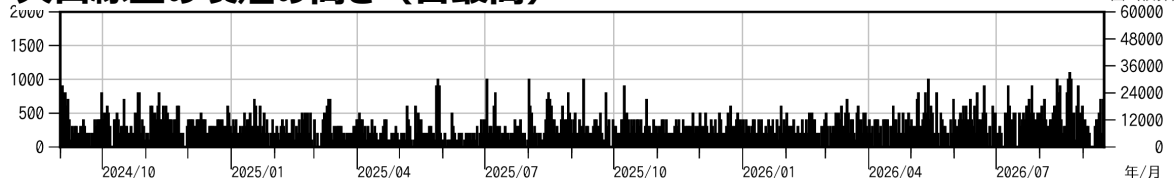
噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

■ 火山活動の状況

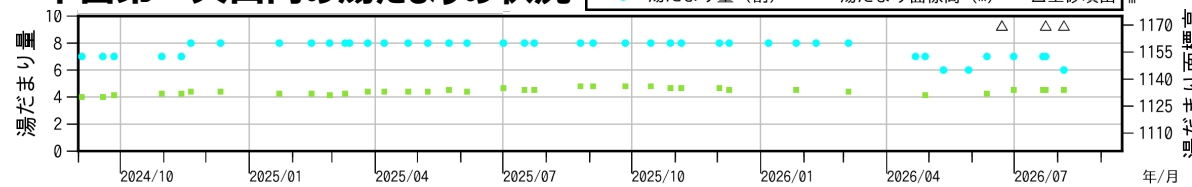
火山性微動の1時間平均振幅（中岳西山腹：南北成分）



火口縁上の噴煙の高さ（日最高）



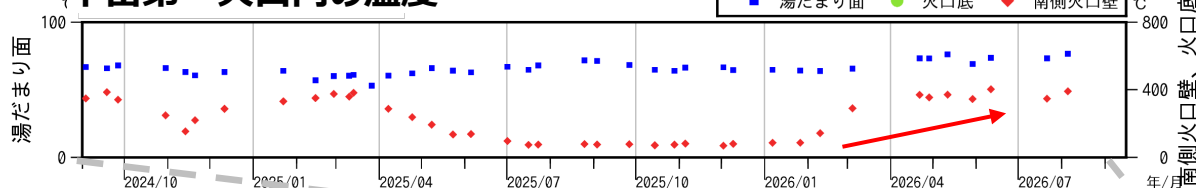
中岳第一火口内の湯だまりの状況



阿蘇地方の地震の影響

R8熊本地震の影響

中岳第一火口内の温度

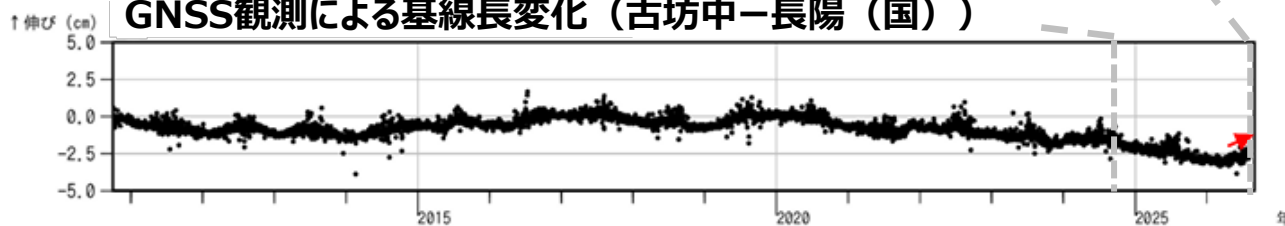


2024年9月～2026年9月15日

湯だまり量がやや減少

火口内温度は上昇傾向

GNSS観測による基線長変化（古坊中ー長陽（国））



2010年10月～2026年8月31日

2026年5月頃から、マグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められる。（赤矢印）

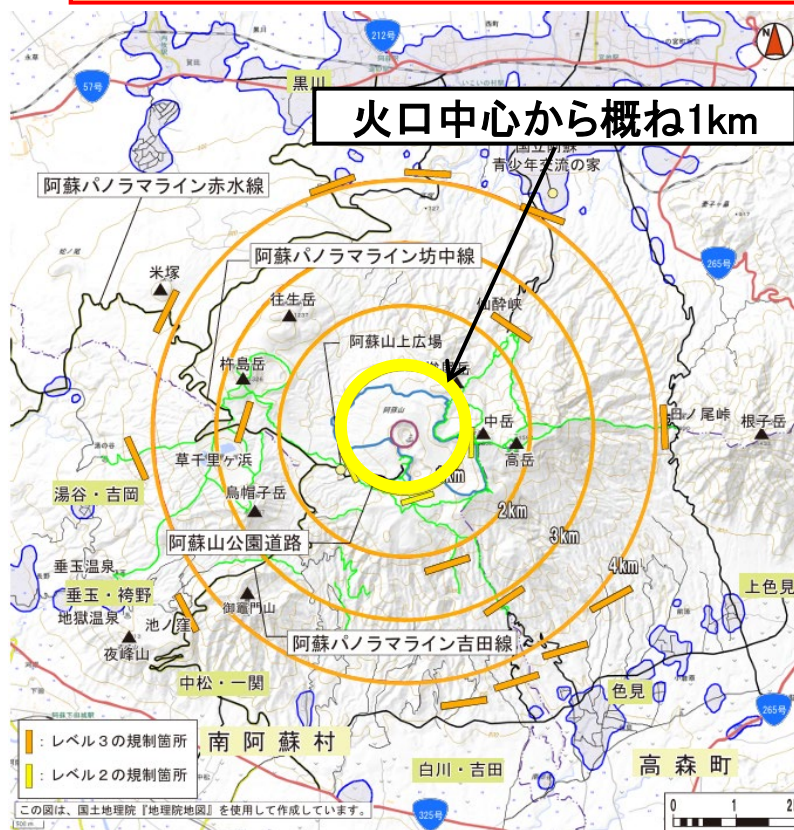


阿蘇山 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

警戒事項

中岳第一火口から概ね 1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。



レベル3（入山規制）：

火口から概ね2km以内立入禁止。
規制範囲は居住地域付近（概ね4km）まで活動状況により変更。
○の範囲内。

- ・中岳・高岳等への登山道の立入禁止

レベル2（火口周辺規制）：

火口から概ね1km以内立入禁止。○の範囲内。

- ・阿蘇山公園道路は利用できません

レベル1（活火山であることに留意）：

火口内等常時立入禁止。

- の範囲内。

凡例

- ：一般道
- ：国道
- ：登山道
- ：中岳第一火口
- ：居住地域

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

■この図は、熊本県による阿蘇山火山防災マップをもとに、熊本県火山防災協議会、阿蘇火山防災協議会及び地元自治体と調整して作成しています。
■各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については阿蘇市、高森町、南阿蘇村にお問い合わせください。

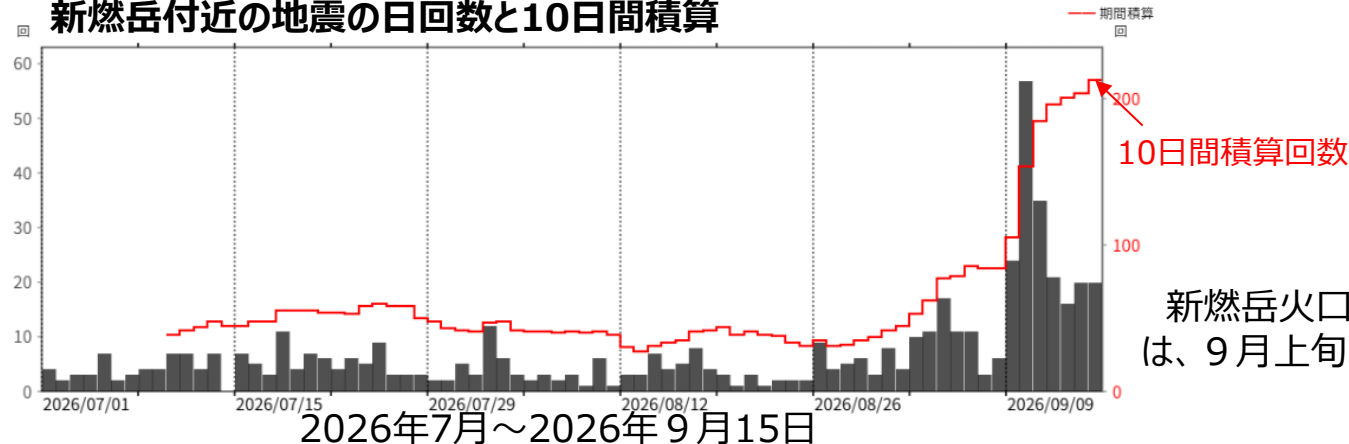
以下、参考資料

（用語集、噴火警戒レベルの判定基準リンク集）

霧島山(新燃岳) 噴火警戒レベル2 (火口周辺規制)

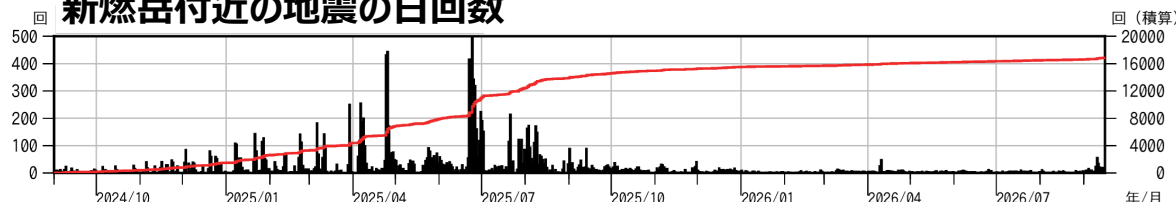
■ 火山活動の状況

新燃岳付近の地震の日回数と10日間積算

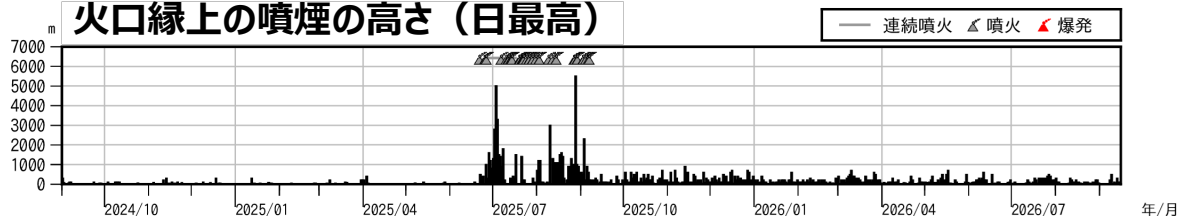


新燃岳火口直下を震源とする地震は、9月上旬以降やや増加

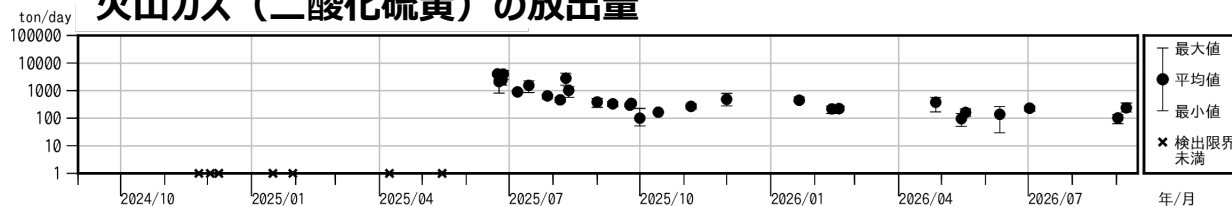
新燃岳付近の地震の日回数



火口縁上の噴煙の高さ (日最高)



火山ガス (二酸化硫黄) の放出量



二酸化硫黄放出量は
100～200トン/日のやや多い状態

霧島山(新燃岳) 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項等

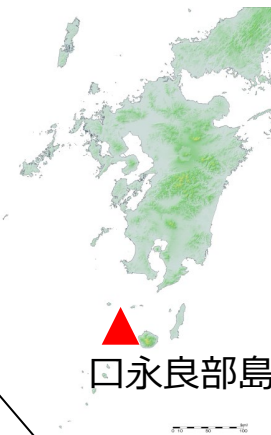
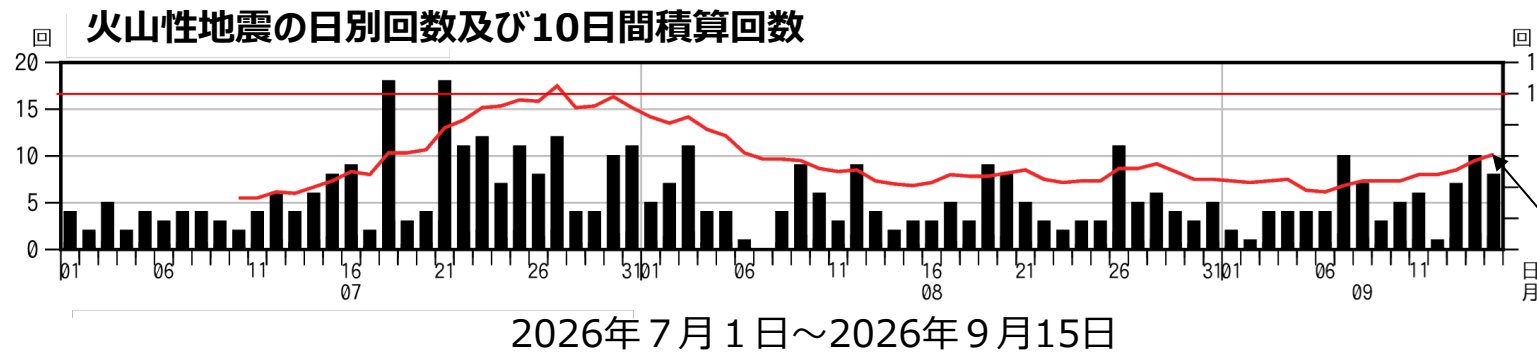
弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね2 kmまで、火砕流が概ね1 kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね2 kmの範囲では警戒してください。



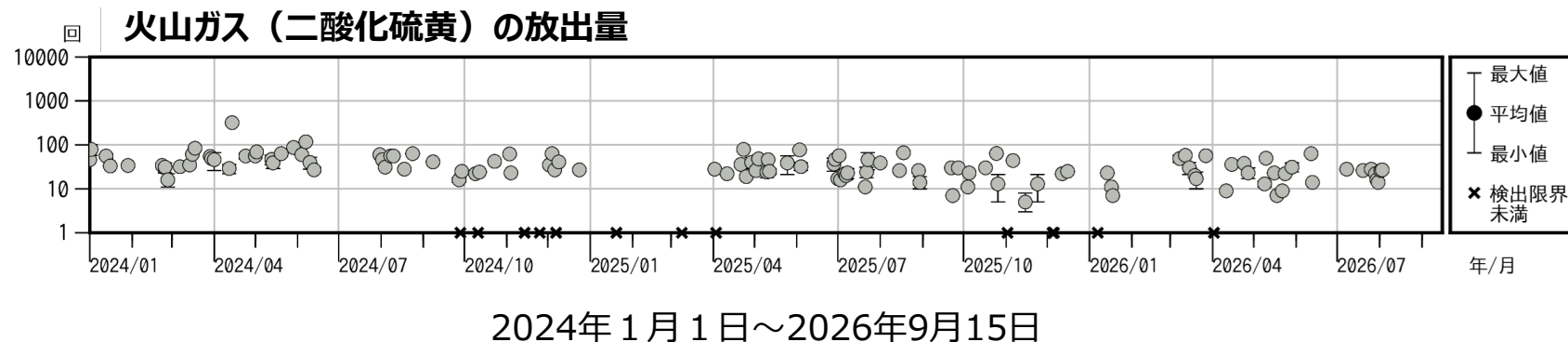
- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

口永良部島

■ 火山活動の状況



10日間積算回数



口永良部島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

新岳火口及び古岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、西側は新岳火口から概ね2 kmの範囲では、火砕流に警戒してください。



- ・ 風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・ 地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

用語集及び噴火警戒レベルの判定基準について

- **噴石** : 気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
 - ・**大きな噴石** : 概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
 - ・**小さな噴石** : 直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火砕流** : 噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振** : 噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震** : 火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動** : 火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映** : 高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱** : 高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連続観測** : GNSS（全球測位衛星システム：Global Navigation Satellite Systems）の受信機を用いて連続的に地表の動き（地殻変動）を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発** : 噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからでも確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html